



追加型投信 / 内外 / 複合資産

## 2019年4月 - 月次レポート

## 市場の動き

4月の海外株式相場は上昇しました。米国では、3月の雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比+19.6万人と、前月を大幅に上回り、市場予想も上回りました。また、1-3月期の実質国内総生産(GDP)成長率の速報値が前期比年率+3.2%と、市場予想を上回りました。欧州では、4月のユーロ圏総合購買担当者景気指数(PMI)が市場予想に反して2ヵ月連続で低下しました。また、ドイツの4月IFO企業景況感指数も、市場予想に反して前月比で低下しました。こうした環境下、海外株式相場は上昇しました。米国は、堅調な経済指標や良好な企業決算、中国の経済指標の改善等を背景に上昇しました。また、欧州も、中国の経済指標の改善や米国株式相場の上昇に加え、英国の欧州連合(EU)離脱期限が再延長されたこと等を背景に上昇しました。

国内株式相場も上昇しました。月後半は10連休を控えて伸び悩んだものの、中国の経済指標の改善や米国株式相場の上昇等を背景に上昇しました。

海外債券相場は下落(債券利回りは上昇)しました。前月末に2.4%台前半であった米国10年物国債利回りは、堅調な米国の経済指標等を背景に上昇し、最終的に2.5%台前半で月を終えました。前月末に-0.0%台後半であったドイツ10年物国債利回りは、英国のEU離脱期限が再延長されたこと等を背景にプラス圏まで上昇し、その後、ユーロ圏の経済指標の悪化等を背景に再びマイナス圏まで低下した局面はあったものの、最終的に0.0%台前半で月を終えました。

国内債券相場も下落しました。前月末に-0.0%台後半であった10年物国債利回りは、欧米の金利上昇等を背景に上昇し、最終的に-0.0%台前半で月を終えました。

為替市場では、米ドルが堅調な米国の経済指標等を背景に米ドル高となり、ユーロも英国のEU離脱期限が再延長されたこと等からユーロ高となり、米ドル/円相場は0.6%の円安、ユーロ/円相場は0.4%の円安となりました。

## ライフポイント

ライフポイントは、投資者のみなさまの長期的な資産形成をお手伝いするために、世界の大手年金基金等が使用している分散投資アプローチを投資信託としてご提供するプログラムです。ラッセル・インベストメントの“マルチ・マネージャー・ファンド”を利用し、“マルチ・アセット(資産クラスの分散)、マルチ・スタイル(運用スタイルの分散)、マルチ・マネージャー(運用会社の分散)”という、3段階のリスク分散により、リスク・コントロールを可能にしたポートフォリオを投資者のみなさまにご提案致します。

## ラッセル・インベストメントグループ

ラッセル・インベストメントグループは、年金、金融機関および個人など様々な投資者のみなさまを対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理など幅広く業務を行っており、現在当グループの運用資産総額は約32兆円※となっています。(※ 2019年3月末現在、為替換算レート: 110.68円/ドル。運用資産総額にはオーバーレイ運用を含みます。)

## ラッセル・インベストメント株式会社

これまでラッセル・インベストメントグループが世界で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資者のみなさまにご提供致しております。





















